

専念寺通信

九月号 (NO. 133)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

去年と同じくらいの猛暑がつづいた今年の夏もようやく終わろうとしています。ゆうべには秋の虫の音が聞こえます。節電のなかのことしの夏、みなさま無事に越されたでしょうか。

☆秋祭

毎年、9月の第2日曜日に、子供神輿が専念寺にやって来ます。お神酒所を正午に出て、専念寺の境内で飲み物を飲んで一休み、そして、穴八幡へむかいます。その年によって、気温の違いはいろいろです。雨の中、寒くて、あたたかいお茶を飲む小学生がいたり、ここ数年のように秋と思えない厳しい日差しで、汗びっしょりで冷たい飲み物をごくごく飲んで日かげで休憩したり、季節の移り変わりを感じさせる恒例の行事です。今年も9月11日、正午過ぎ、子供神輿がやって来ました。最近ちいさい子供の数が減っていたのですが、今年も例年よりぐっと担ぎ手がふえ、頼もしい限りでした。当日の写真を掲載させていただきます。原町2丁目の神輿で、法被の背中には「原式」と書かれています。

☆彼岸

9月23日の秋分の日をはさんで1週間が秋の彼岸です。毎年、春の3月と秋の9月の『通信』には六波羅蜜についての解説を掲載しています。

六波羅蜜

布施 (ふせ) あたえること。

財施 (ものを施す)・**法施** (真理を施す)・**無畏施** (恐怖をとりのぞき安心を与える)

持戒 (じかい) 戒律を守ること。

忍辱 (にんにく) 苦難に堪え忍ぶこと。

精進 (しょうじん) 真実の道をたゆまず実践すること。

禅定 (ぜんじょう) 精神を統一し安定させること。

智慧 (ちえ) 真実の智慧を得ること。

この六つの徳目を彼岸の1週間のあいだに心がけてみましょう。気持ちを落ち着けて(いつもなんとなくせかせかしていませんか?)、迷ったり、目の前の利益に左右されたりせず、ずっと先にあるものを目指して、そのためにはずっと昔の人の智慧を拝借して、そして、しっかり堪えなければならない時には堪えて……。出来そうな気がします。戒律は法律とは違いますが、自分でそっと決めてもよいのです。決めたら守る、が大切です。そして、できることがあれば、迷わず、なんでも誰かのためにしてみましょう。たいしたことはできないと思っても、ささやかなアドバイスが思いがけず役にたつこともあります。何もしなくとも、あなたの存在自体が、誰かの助けになる場合だってあります。ひとりの人間がひとつ、近くの人に善いものを手渡せば、それがつながって行くだけでも、私たちの日常の空気は変わってきます。むずかしく考えずに、せっかくの機会ですから、ぜひ試してみましょう。

左の写真は、中庭のカクレミノ(隠れ蓑)の樹です。蕾がたくさんあります。花の咲くのが楽しみです。右は、墓地の珊瑚樹です。細い葉でそれほど大きな樹ではありませんが、いま緑の実をたくさんつけています。毎日、ぽとぽと実が落ちます。お彼岸まで暑さは続きそうです。季節のかわりめ、どうぞくれぐれもご自愛下さい。

平成23年9月1日 大黒

